

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

2023年 5 月 12 日

宮崎県知事 河野俊嗣 殿



提出者

住 所 宮崎県西都市鹿野田11365-1

氏 名 神楽酒造株式会社 西都工場
代表取締役社長 佐藤 基光

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0983-41-1234

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	神楽酒造株式会社 西都工場
事業場の所在地	宮崎県西都市鹿野田11365-1
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	E-1024 蒸留酒 ・ 混成酒製造業
②事業の規模	29億7,057万円
③従業員数	44 人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	* 汚泥→堆肥化委託→肥料として利用 * 廃酸→濃縮・乾燥委託→配合飼料原料として利用 * 廃酸→活性汚泥処理槽の栄養源として委託処理 * 廃プラスチック類→回収委託→埋立 * ガラス・コンクリート・陶磁器くず→破碎委託→カレットとして再生利用 * 動植物性残渣→堆肥化委託→肥料として利用

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙の通り (別紙1)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度 (年度) 実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	【目標】 別紙の通り (別紙2)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙の通り (別紙2)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチックは、他の廃棄物が混入しないように確実に分別する
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 事業系一般廃棄物との収集場の区分けの徹底

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

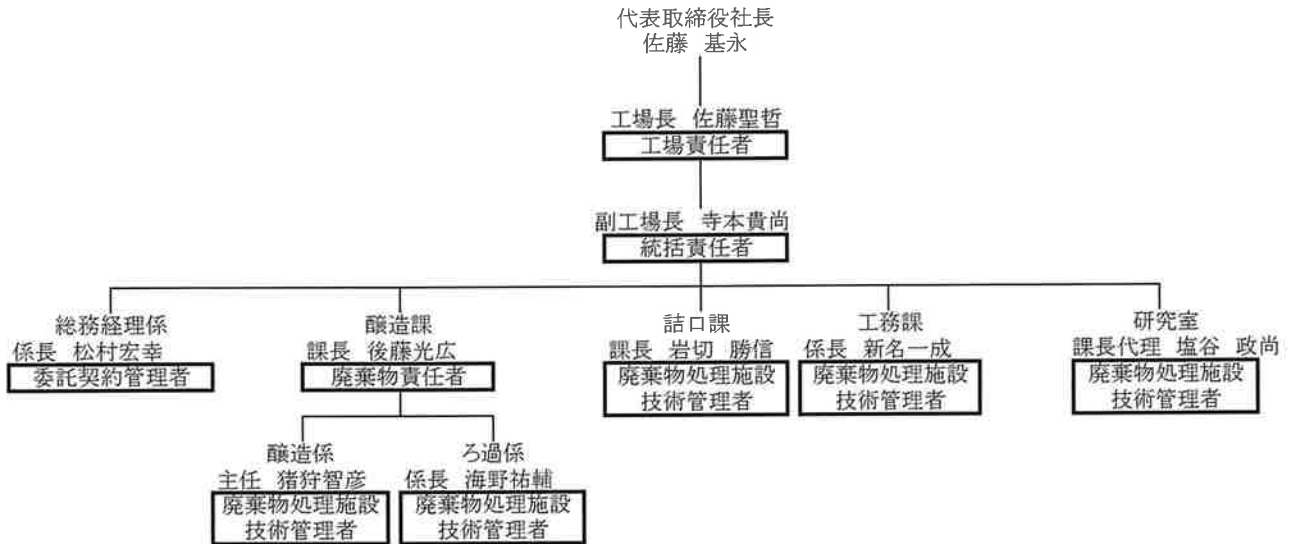
①現状	【前年度（ 年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組)	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		別紙の通り（別紙3）
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】 別紙の通り (別紙3)	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t
	再生利用業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	
※事務処理欄		

◎管理体制図



◎教育

発生する廃棄物の種類、処理方法、留意事項について従業員に随時・教育・啓蒙を行う。
産業廃棄物保管場所の定期巡回
新規委託契約契約時の最終処分場視察

◎情報公開

廃棄物処理についての従業員の関心・意識を高める為、廃棄物の発生・分別・再生利用状況について情報の公開に努める。
また、必要に応じて周辺住民に対して施設の見学会を実施する。

別紙2

◎産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度(令和4年度)実績】						
①現状	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0400 廃酸	0600 廃プラスチック類	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	1000 動植物性残さ
		排出量	19.0t	5603t	15.0t	0t
(これまでに実施した取り組み) 汚泥→脱水方法の改善による重量減少 廃プラスチック→分別の徹底を行う 芋くずがR2年度から有価→廃棄の取り扱いで(動植物性残渣)の排出が急増 甘藷の「基腐病」での動植物性残渣の発生が増加						

【目標】						
①計画	産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0400 廃酸	0600 廃プラスチック類	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	1000 動植物性残さ
		排出量	18t	5000t	10t	3t
(今後実施する予定の取組) 汚泥→排水処理における「排泥」計画を調整し、汚泥量の抑制に努める もろみの酒化率を向上させ廃酸の発生割合を低減する為の発酵管理強化に努める 「基腐病」のない甘藷の仕入れ管理強化 廃酸の有価物への推進						

別紙3

◎産業廃棄物の委託に関する事項

		【前年度(令和4年度)実績】				
産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0400 廃酸	0600 廃プラスチック類	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	1000 動植物性残さ	
①現状	全処理委託量	19.0t	5603t	15.0t	0t	37.8t
	優良認定業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	再生利用業者への処理委託量	19.0t	5603t	—	0t	37.8t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—
<p>(これまで実施した取り組み)</p> <p>委託契約に基づき、計画的に処理を委託し、委託先からの定期的な情報入手に努めている 又、廃プラスチック類の最終処分場(埋立)の許容量により、処分業者のみ別業者と委託契約した 処理費用削減を目的とした廃酸の処理委託先と新たに処分契約書を交わす</p>						

		【目標】				
産業廃棄物の種類	0200 汚泥	0400 廃酸	0600 廃プラスチック類	1300 ガラス・コンクリート・陶磁器くず	1000 動植物性残さ	
①計画	全処理委託量	18t	5000t	10t	3t	35t
	優良認定業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	再生利用業者への処理委託量	18t	5000t	—	3t	35t
	認定熱回収業者への処理委託量	—	—	—	—	—
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	—	—	—	—	—
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>有価物として取り扱いの「廃酸」の委託先への供給を拡大</p>						